

脳科学の第一人者である川島隆太先生の第4弾である。今回は、読書が中心である。

スマートフォンがよくないなら、今、文部科学省が推奨している GIGA スクールはどうなるのか、実験をしたり調べたりしました。言葉調べ、もの調べをする時の脳の働きについて、スマホで調べた時と辞書で引いた時で比較すると、スマホで調べている時は、非常にたくさんの量を調べることが短時間でできますが、前頭前野はほとんど動かず、一方、辞書を使って調べると、言葉調べの量は減りますが、前頭前野はしっかり働きます。

脳の働き方が全く違うのです。授業中にインターネットを使えば使うほど学力は下がるという明白なデータがあり、オフィシャルに国連から発表されているにもかかわらず、なぜ GIGA スクールなのでしょう。

一方、逆に子どもたちにとって、とてもプラスが大きい行為、その代表が読書です。クリエイティビリティが脳のどこから生まれるのか実験を行うと、創造力の脳は読書の時によく働くということもわかってきています。

読書量が増えるにつれて特に左脳の白質の発達がよくなるということが、我々の研究で明らかになっています。しかも、小さい子どもの脳ほど鋭敏で、学年の小さい時に読書をしないのは致命的だということがわかりました。

学校関係者としては、GIGA スクールに対する見解は困るが、当惑するほどのことではない。自分のことで考えてみる。スマホでよく調べものをする。素早く十分な量の情報を獲得することができる。だが、仕入れた知識が定着することはない。それは、あなたの年のせいだろうと言われそうだが、そうでもないように思う。

やはり紙媒体である辞書を使った方が定着しやすいように思う。読書と同じで、紙にある文字を見ると、自分でも脳が働いているように感じる。思考しているのである。それが、インターネットの画面だと、文章を読んではいるが、思考していないような気がする。

読書のときは、さらに分かりやすい。読みながら、いろいろなことを考えている。思考していることを自分でも自覚できる。創造力の脳が読書の時によく働くというのは、分かるような気がする。

私の場合だが、思考の脳が爆発的に発達する思春期を迎えた中学生時代、そして高校時代に、たくさん読書をした記憶がある。もちろん、ゲームもスマホもない。それがよかったのかどうかは分からない。

だが、もし中学時代にゲームもスマホもあったとしたら、あんなに本を読んだらどうか。自分に自律心などないと思っている私である。果たして、ゲームやスマホの魅力、いや魔力に打ち勝つことができたらどうか。甚だ疑問である。

ゲームやスマホがよくななく、読書がいいことは、多くの人たちが認識していることだろう。では、どうすればいいのか。思考の脳が爆発的に発達する中学生の時期を任された中学校にとって、大きな課題の一つである。